

# 東京シンフォニエッタ

第60回 定期演奏会

邦人作品の現在地



望月京.. 黒を超えて 日本初演 (2011・2013)

棚田文紀.. 響き渡る鐘の音 II (2025)

板倉康明.. 川面の煌めき (2024)

武満徹.. 群島 S・(1993)

Misato Mochizuki: Outrenoir, Japan Premiere (2011-2013)

Fuminori Tanada: Echoing Belles II (2025)

Yasuaki Itakura: REFLET DANS LE FLEUVE (2024)

Toru Takemitsu: Archipelago S. (1993)

# TOKYO SYMPHONETTA

2026.12.7 [Mon]

19:00開演 (18:30開場)

サントリーホール

ブルーローズ(小ホール)

全席自由 一般 ¥4,000 学生 ¥2,000(税込)

主催 一般社団法人東京シンフォニエッタ

助成 NOMURA 野村財団

芸術文化振興基金

お問い合わせ・マネジメント (株)AMATI 03-3560-3010

東京都港区赤坂1-14-5-S103 <https://www.amati-tokyo.com>



AMATI



|                                          |
|------------------------------------------|
| 代表・音楽監督<br>板倉康明                          |
| フルート<br>斎藤和志<br>斎藤光晴                     |
| オーボエ<br>梅校理恵<br>辻 功<br>渡辺康之              |
| クラリネット<br>川越あさみ<br>佐藤和歌子<br>西澤春代         |
| ファゴット<br>河府有紀<br>長 哲也                    |
| ホルン<br>有馬純晴<br>岸上 穰<br>中島大之              |
| トランペット<br>坂井俊博<br>高橋 敦                   |
| トロンボーン<br>西岡 基                           |
| パーカッション<br>石崎陽子<br>松倉利之<br>和田光世          |
| ピアノ<br>藤原亜美                              |
| ハープ<br>木村茉莉                              |
| ヴァイオリン<br>梅原真希子<br>海和伸子<br>山本千鶴<br>吉成とも子 |
| ヴィオラ<br>百武由紀<br>吉田 篤                     |
| チェロ<br>宇田川元子<br>高麗正史<br>花崎 薫             |
| コントラバス<br>那須野直裕<br>長谷川信久<br>吉田 秀         |
| エレクトロニクス<br>有馬純寿                         |
| 団友<br>渡辺 功<br>守山ひかる                      |
| 副代表<br>斎藤和志                              |
| 事務局<br>多田逸左久                             |

2026年12月の定期演奏会では、邦人作曲家として、その範疇を超越している武満徹の「群島S」を取り上げる。本作品は室内管弦楽の空間配置も指定されていて、ホールを厳選しないと音楽的に散漫なものとなってしまうがちだが、今回のブルーローズでどのように届くか楽しみである。武満はサントリーホールとも縁が深く、1986年に始まった国際作曲家シリーズの初代監修者としても大きな功績を残している。

棚田文紀「Echoing Belles II」は昨年6月パリにて世界初演を聞き、ほぼ同年代の旧知の者として大きな感銘を受け作曲者と挨拶を交わしたが、その12日後に棚田は世を去ってしまった。言葉を交わした時に何でこの作品の日本初演はTSでやりますと直接伝えられなかったかは大きな悔恨として残っている。その後ぜひこの作品を日本で演奏したいと考え権利関係の整理、出版に至るまでさまざまな所と連絡をとり演奏が可能になった。追悼という意味ではなく、邦人作曲家の重要な作品として演奏する。

望月京「黒を超えて」は武満、棚田とは異なる世代だが国内外で活躍している邦人の重要な作曲家である。今回は日本初演となる室内オーケストラ作品を取り上げる。望月はその作品の高い質に比して日本で取り上げられる機会が決して多いとは言えない作曲家だが、これから紹介していきたい作曲家である。

板倉康明「川面の煌めき」は独奏クラリネットを伴う室内オーケストラ作品で2024年に初演されたものである。国立音楽大学の委嘱として作曲されたものであるが、構想中に東京シンフォニエッタの仲間たちの音が頭の中で響いていた作品である。作品では実験的、いわゆる革新的要素は取り上げず、各楽器がそれぞれの「音」の魅力を発揮して行くという世界的に知的・実験的なもの、聞きやすいものにと二極化している現代作品の一つの例として取り上げる。

東京シンフォニエッタ代表・音楽監督  
板倉康明

2026年12月7日[月]  
19:00開演(18:30開場)  
サントリーホール ブルーローズ(小ホール)

全席自由(税込)  
一般 ¥4,000 学生 ¥2,000

◎チケット予約

サントリーホールチケットセンター  
0570-55-0017 (10:00～18:00)

イープラス……………<https://eplus.jp> (PC&携帯)

チケットぴあ……………<https://t.pia.jp> (PC&携帯)  
[Pコード 336-937]

ローソンチケット………<https://l-tike.com/> (PC&携帯)  
[Lコード 32796]

次のことをあらかじめご承知の上、チケットをお買い求め下さい。

❶やむを得ない事情により、曲目等が変更になる場合がございます。公演中止を除き、お買い求めいただきましたチケットのキャンセル・変更等はできません。❷いかなる場合もチケットの再発行はできません。紛失等には十分ご注意ください。❸演奏中は入場できません。❹未就学児の同伴はご遠慮下さい。また、就学児以上のお子様もご入場には1人1枚のチケットが必要です。❺全席指定席です。指定の座席にてご鑑賞ください。❻場内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は固くお断りいたします。❼ネットオークション等によるチケットの転売は、トラブルの原因になりますのでお断りいたします。❽他のお客様の迷惑となる場合、主催者の判断でご退場いただく場合がございます。

望月京 (1969-) Misato MOCHIZUKI

東京藝術大学、同大学院およびパリ国立高等音楽院作曲科、楽曲分析科修了。さまざまな領域への関心からもたらされる着想や、繊細さとダイナミズム、多彩な音色とバランス感覚に優れたユニークな作風が各地で注目を集め、国内外より委嘱された作品はブザンソン指揮者コンクール課題曲、ザルツブルク音楽祭、ヴェネツィア・ビエンナーレ、リンカーンセンター・フェスティバル等で演奏されている。サントリー音楽財団創設40周年記念公演オペラ「パン屋第襲撃」では東京シンフォニエッタが演奏を担う。芥川作曲賞、出光音楽賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、尾高賞、ハイデルベルク女性芸術家賞などを受賞。現在、明治学院大学教授、東京藝術大学客員教授。



© Ayano Shindo

棚田文紀 (1961-2025) Fuminori TANADA

1961年岡山県に生まれる。東京芸術大学作曲科にて作曲を八村義夫、伴奏法をアンリエット・ビュイグ＝ロジェに師事。1984年～1987年フランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院で学び、作曲、オーケストレーション、ピアノ伴奏で一等賞を得て卒業。同音楽院大学院作曲科修了。1989年よりフランスの現代音楽アンサンブル「イティネレール」のピアニストとして活動すると同時にパリ国立高等音楽院フルート科伴奏者を40年に渡り務める。2013年よりパリ国立高等音楽院室内楽科教授。数多くの委嘱作品を残し、多くはアンリ・ルモワンス、ビヨード等フランスの出版社より出版されている。CD収録も多い。今作品が絶筆となり、2025年6月、フランスでの世界初演の10日後に逝去。



© Ayumi Mori

板倉康明 (1960-) Yasuaki ITAKURA

東京藝術大学音楽学部附属音楽高校を経て東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。フランス政府給費留学生として渡仏、パリ市立音楽院、パリ国立高等音楽院卒業。在仏中よりオーケストラに属する事なく、ソリスト、室内楽奏者としてのキャリアを積み現在に至る。海外のさまざまな音楽祭での演奏、フランスを始めとする世界各地でのマスタークラスでの教授、また現代作品への深い理解、共感から100を下らない世界初演を行なっている。邦人作曲家による協奏曲をクラリネット奏者として東京フィルハーモニー管弦楽団、東京都交響楽団、新日本フィルハーモニー等と共演。教育・著作活動としては全音楽譜出版社からクラリネットのための重要な作品の日本語版が出版されている。日本音楽コンクール委員会特別賞、中島健三音楽賞等を受賞。元フランス国立ボルドー・ヌーヴェルアカテヌ高等音楽舞蹈学院教授。東京シンフォニエッタ音楽監督。独学で作曲活動を行っている。



© HN

武満徹 (1930-1996) Toru TAKEEMITSU

1930年東京生まれ。主に独学で作曲を学ぶ。音楽の勉強と並行して、近代絵画、演劇、映画、文学(特に叙情詩)など他の芸術にも強い関心を抱き、多くの芸術家と親交を深めた。彼の作品ジャンルは多岐に渡り、コンサートピースから電子音楽、映画音楽、舞台音楽、ポップソング等、彼の持つ「タケミツ・トーン」と呼ばれる独特の響きは世界中の音楽家、演奏家、聴衆を魅了した。1951年「実験工房」を共同設立。1973年～1992年までおこなわれた「Music Today」の音楽監督や、1986年に始まった「サントリーホール国際作曲委嘱シリーズ」を監修するなど、常に同時代の音楽に高い関心をもち、多くの優れた作曲家を日本に紹介した。名エッセイストとしても知られる。



© Kiyotane Hayashi



<https://sinfonietta.tokyo/>